



〒660-0051 尼崎市東七松町2丁目5番67号TEL (06) 6481-5351 Fax (06) 6481-5352 <http://www.ama-net.ed.jp/school/J03/index.htm>

「その声はいまも…」

東日本大震災からの学び

あの女(ひと)は ひとり
わたしに立ち向かってきた
南三陸町役場の 防災マイクから
その声はいまも響いている
わたしはあの女を町ごと呑みこんでしまったが
その声を消すことはできない

“ただいま津波が襲来しています
高台に避難してください
海岸近くには
絶対に近づかないでください”

わたしに意志はない
時がくれば 大地は動き
海は襲いかかる
ひとつの岩盤が沈みこみ
もうひとつの岩盤を跳ね上げたのだ
人間はわたしをみくびっていた

わたしの巨大な力に
あの女は ひとり
立ち向かってきた
わたしはあの女の声を知っている
その声のなかから
いのちの蘇るのを感じている

わたしはあの女の身体を呑みこんでしまったが
いまもその声は わたしの底に響いている

左の詩は、詩人高橋留美子さんの作品です。あの「東日本大震災」の「津波」を擬人化し、「わたし」として語らせています。詩の中に出てくる「あの女(ひと)」とは、最後まで避難を呼びかけた宮城県南三陸町の職員、遠藤未希さんのことです。震災の日に警察官・消防署員など多くの人が尊い命をなくしています。遠藤さんのように自分の使命を果たそうとして逃げ遅れた人も大勢います。

この詩は、1月28日の朝日新聞の社評「天声人語」に紹介されています。

人間は大自然の力には勝てません。みくびってはいないけれど、どうしようもない場合もあります。それでも、必死で他人を助けようとする遠藤さんの、凛とした防災マイクの叫び。自らの命を犠牲にした代わりかどうか、津波である「わたし」はその声

から「いのちの再生」を感じています。単なる美談ではない、命の大切さや人間の気品が、この詩には描かれている気がします。

本当に何度も言いますが、「今、私たちにできることは何か」。阪神大震災や東日本大震災を忘れることなく、生きている限り自分自身に問い続けていければと思います。特に3年生は、今一度、学校便り11号の、気仙沼市立階上中学校の梶原君の答辞を思い出し、卒業後の生き方を考えてみてください。

第7回卒業証書授与式を前に

有終の美 — 最後を美しく飾れ!

来月9日(金)にいよいよ第7回卒業証書授与式が行われます。3年生にとっては、9年間の義務教育の締めくくりとして、大きな節目となる行事です。第7期生として、心と身だしなみを整え、卒業後の夢と希望につながる、すばらしい卒業式にしてほしいと願っています。



一人ひとりに手渡す「卒業証書」。私は一年間でしたが、大切に手渡してあげたいと思います。

3年生全員が「卒業判定(卒業を認定するかどうかの会議)」を経て、堂々と卒業していく予定です。「卒業したら、こうしていくぞ!」という決心が一番大切です。未来に夢や目標を持つことが、「卒業式」の大きな意味です。がんばって、大切な「節目」の日を乗り切ってください。

特別支援学級「3年生を送る会」

2月18日(土)、小田公民館で市内中学校の特別支援学級の「3年生を送る会」が開催されました。本校の3年生、濱田君・杉岡君・信君・梶岡君の4名が「卒業生」として激励メッセージをいただきました。また、本校全員で、ペープサート劇「赤ギツネの恩返し」を演じてくれました。観覧の方々も感動するすばらしい「送る会」でした。



がんばった生徒たち

生徒会保健委員会 尼崎市学校保健会から表彰

2月16日(木)に教育総合センターで、保健委員長の高野智瑛さんが賞状を受け取りました

男子バレー部 「兵庫県バレーボール選手権」準優勝

兵庫県代表として近畿大会(3/26~)に出場

女子バレー部 「尼崎市長旗杯バレーボール大会」

第3位

水泳部 「東播オープン冬季水泳記録会」

男子100m背泳(1分13秒86) 第3位 福谷優太

男子50m背泳(36秒20) 第2位 中岡憲佑

吹奏楽部 「兵庫県アンサンブルコンテスト」

金賞 打楽器7重奏

銀賞 クラリネット7重奏

「関西アンサンブルコンテスト」

銀賞 打楽器7重奏(岡島瑞歩・大江千晶・山下知怜・濱口美津紀・宇治野真悠菜・酒匂太輝・橋口菜々子)

「東阪神ソロコンテスト」

優秀賞1位 ユーフォonium 鈴木真央(2-5)

鈴木君は、2/26(日)の関西ソロコンテストに出場!

